

富士に就いて

太宰治

青空文庫

甲州の御坂峠^{みさかとうげ}の頂上に、天下茶屋という、ささやかな茶店がある。私は、九月の十三日から、この茶店の二階を借りて少しづつ、まずしい仕事をすすめている。この茶店の人たちは、親切である。私は、当分、ここにおいて、仕事にはげむつもりである。

天下茶屋、正しくは、天下一茶屋というのだそうである。すぐちかくのトンネルの入口にも「天下第一」という大文字が彫り込まれていて、安達謙蔵、と署名されてある。この辺のながめは、天下第一である、という意味なのであろう。ここへ茶店を建てる^{はげ}ときにも、ずいぶん烈しい競争があつたと聞いている。東京から

の遊覧の客も、必ずここで一休みする。バスから降りて、まず崖の上から立小便して、それから、ああいいながめだ、と讚嘆の声を放つのである。

遊覧客たちの、そんな嘆声に接して、私は二階で仕事ぐるしく、ごろり寝ころんだまま、その天下第一のながめを、横目で見るのだ。富士が、手に取るように近く見えて、河口湖が、その足下に冷く白くひろがっている。なんとすることもない。私は、かぶりを振って溜息ためいきを吐く。これも私の、無風流のせいであろうか。

私は、この風景を、拒否している。近景の秋の山々が両袖から

せまって、その奥に湖水、そうして、蒼空に富士の秀峰、この風景の切りかたには、何か仕様のない恥かしさがありはしないか。これでは、まるで、風呂屋のペンキ画である。芝居の書きわりである。あまりにも註文とおりでである。富士があつて、その下に白く湖、なにが天下第一だ、と言いたくなる。巧たくみすぎた落ちがある。完成され切つたいやらしさ。そう感ずるのも、これも、私の若さのせいであろうか。

所謂いわゆる「天下第一」の風景にはつねに驚きが伴わなければならぬ。私は、その意味で、華嚴けごんの滝を推す。「華嚴」とは、よくつけた、と思つた。いたずらに、烈しさ、強さを求めているのでは、

無い。私は、東北の生れであるが、咫尺しせきを弁ぜぬ吹雪の荒野を、まさか絶景とは言わぬ。人間に無関心な自然の精神、自然の宗教、そのようなものが、美しい風景にもやはり絶対に必要なものである、と思っているだけである。

富士を、白扇さかしまなど形容して、まるでお座敷芸にまゐりてしまっているのが、不服なのである。富士は、熔岩の山である。あかつきの富士を見るがいい。こぶだらけの山肌が朝日を受けて、あかがね色に光っている。私は、かえって、そのような富士の姿に、崇高を覚え、天下第一を感ずる。茶店で羊羹ようかん食いながら、白扇さかしまなど、気の毒に思うのである。なお、この一文、茶屋の人たちには、読ませたくないものだ。私が、ずいぶん親切に、

世話を受けているのだから。

青空文庫情報

底本：「太宰治全集10」ちくま文庫、筑摩書房

1989（平成1）年6月27日第1刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集第十卷」筑摩書房

1977（昭和52）年2月25日初版第1刷発行

初出：「国民新聞 第一六八三五号」

1938（昭和13）年10月6日発行

入力：土屋隆

校正：noriko saito

2005年3月17日作成

2016年7月12日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

富士に就いて

太宰治

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>